

子どもの健康づくり連携事業〈専門医の派遣〉実践例

中学校③

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「SNSやメディアの向き合い方が生活習慣や身体に及ぼす影響、依存症等について」
- 2 対 象 1年生徒、教職員
- 3 専門医 池田 博行 医師
(池田小児科クリニック)
- 4 実施月 12 月
- 5 内 容(キーワード)
スマホが子どもにもたらす3つの害
子どもの脳と大人の脳の違い
上手に利用するルールづくりの大切さ



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*本校の生活リズムアンケートについて、講師の先生がお持ちのこれまでの資料と照らし合わせ、同じ大きな課題であることを生徒に意識付けられた。

*生活リズムの改善は、本校でも大きな課題であり、医師の立場からで実態に即した内容の講演をいただいた。

②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*メディア・コントロールに関する取り組みを町立の小中で時期を合わせて取り組んでいる。

*町PTAのテーマとして、保護者への周知を進めている。

*講話の資料を事前に全職員に配布、事後に町内小学校PTA会長及び各校教頭に配布し、次年度のメディア利用について提案を行った。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

(○)有効だった

()課題が残った

<その理由>

*本校の職員の意識付けと学びがあった。職員が個別のケースについて本校スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談する際に、養護教諭と連携しながら問題として捉える項目として確認できた。

〔受講者の感想など〕

○スマホやタブレットなどのメディアに依存してしまうと生活リズムが崩れて立ち眩み、失神、朝起き不良や頭痛の症状が伴う可能性があることがわかった。また、SNSやゲームに熱中してしまうと家族と過ごす時間、会話も減ってしまうと思うので、部屋にこもりっきりではなく、リビングでできるだけ家族との時間を増やしたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

○保健体育(病気の予防)、家庭(生活リズム)、道徳(メディア・リテラシー他)

○「いじめ犯罪防止講演会」(全校生徒)

○メディア・コントロール生活リズムの取組(全校生)

○町PTAでの取り組み

